

外務省での勤務を通じて

平成30年5月
外交実務研修員 林 幸枝
(横浜市より派遣)

1. はじめに

私は、平成28年の1月に横浜市から派遣され、外交実務研修員として外務省で勤務しています。

横浜市に入庁して今年で13年目となりますが、最初の職場は区役所の福祉保健センターの保育担当でした。同じ区役所の総務課を経て、「APEC2010 横浜開催」や現代美術の国際展覧会「ヨコハマトリエンナーレ」などのイベント、外務省に出向する直前は国際局という部署でインドや中国等のアジア諸国との都市間交流を担当しました。国際局での一番の思い出は、インドでの横浜市ムンバイ事務所開所式典です。慣れない海外でのイベント実施は、想像以上に大変だったのを覚えています。

実は私は横浜市出身ではないのですが、横浜の「異国情緒」や「国際都市」というイメージに憧れて入庁し、10年目に入庁以来希望していた国際局に配属となりました。ちなみに、もともと横浜市には国際関係の部署がありましたが、2016年に政令指定都市で初となる「国際局」が創設されました。

2. 伊勢志摩サミット準備事務局での勤務

国際局配属になり、一年経たないうちに、外務省への出向の辞令が出て驚きました。さらに驚いたことに配属先は「伊勢志摩サミット準備事務局」そして「警備担当」ということでした。「サミットの警備？」自分がそのような担当になるとは夢にも思いませんでした。横浜市で実施するイベントとはスケールもなにもかも違う予感がしました。警備担当という性質上、内容をご紹介できないところが残念ではありますが、外務省の方でも中々できないであろう経験をさせていただきました。半年間の事務局勤務の間、何度か忘れたくらい賢島に通いました。時には、打合せのために霞ヶ関から賢島まで、往復8時間かけて行ったこともありました。体力的にも大変でしたが、終わったあとは達成感がありました。



賢島へは「伊勢志摩ライナー」で



見るのが辛かったカウントダウンボードも

終了後は「ありがとう」にグローバル通信第112号

3. TICAD 事務局での勤務

伊勢志摩サミットが終了してまもなく、TICAD 事務局へ異動しました。こちらでも、「史上初の TICAD アフリカ開催」という非常にメモリアルなタイミングということでした。半年間、頭の中は賢島でいっぱいだったのを、ケニア・ナイロビに切り替えることになりました。もちろんアフリカには行ったことがありませんし、国際会議をアフリカで開催するなんて想像もつきませんでした。TICAD VIでは企業担当をさせていただきました。総理同行ミッションとして、77 団体の企業及び大学等の代表（ほとんどが CEO クラス）が参加したのですが、私はこのミッションの担当をしました。ビジネスカンファレンスにおいて、安倍総理、ケニヤッタ・ケニア大統領をはじめとするアフリカ代表の立ち会いの下、22の日本企業・団体と20のアフリカ諸国及び6機関の間で署名された73件のMOU(覚書)記念式典を行いました。本番直前には、3週間ほどナイロビの準備室で勤務しましたが、本省からの出張者だけでなく、様々な公館から外務省の精鋭が集結し、プロフェッショナルなみなさんと仕事ができただけでなく、自分の財産となりました。



ケニヤッタ国際会議場にて



TICAD VI企業班のみなさんと

4. アフリカ第二課での国担当業務

TICAD VI終了後、2017年の9月より、アフリカ部アフリカ第二課で国担当となりました。アフリカ第二課は、アフリカ大陸の54か国中、東部及び南部の25か国を所掌しており、私はザンビア、ナミビア、タンザニアの担当をしています。最初に国担当になった時、「日本でその国に一番詳しい人になれるよう頑張る」というエールをいただきました。エールのはずが相当なプレッシャーでした。それから1年半以上が経ちますが、みなさんに助けられながら業務をこなしています。

担当国にも出張に行かせて頂きましたが、武井外務大臣政務官(当時)に随行してナミビアを訪問し、アマディーラ・ナミビア首相を表敬した際、坂本駐ナミビア大使(当時)が私のことを「ナミビア担当」として紹介してくださり、嬉しかったのを覚えています。また、国担当は日頃から在京大使館との付き合いもありますが、様々な行事を通じ、在京大使館のみなさんとの信頼関係も深まってきた気がしています。



在京ナミビア大使館のカウンターパートと



ザンビアが誇るビクトリアの滝

国担当の個々の業務以外で、年に何度かあるのが招へい事業です。特に元首クラスが訪日する場合は、その国の担当だけでなく、課内全員でチームを組んで準備を進めます。2017年のニュシ・モザンビーク大統領夫妻、ラジャオナリマンピアニナ・マダガスカル大統領夫妻の訪日時には、どちらも夫人プログラムを担当しましたが、出向元の横浜市と連携し、横浜市の取り組んでいる「アフリカとの一校一国」事業でモザンビークとマダガスカルを担当している小学校への訪問が実現しました。

大型招へい事業は、ロジ・サブロジ・サブそれぞれの担当が連携して行うので、一つの招へい事業をやり遂げると課内の結束が深まる気がします。

アフリカ部は、業務自体は大変な事が多いですが、明るく楽しく和気藹々とした雰囲気、アフリカ愛に溢れている方ばかりだと感じます。国担当の業務は多岐に及び、アフリカは予測不能なことが起こりがちです。英語が下手だとか、とんでもないミスをしてしまったとか、そんなことで落ち込んでいる暇がないくらい、日々が慌ただしく過ぎていきます。大変な業務でも、明るく仕事をするのがアフリカ部の良いところだと思います。



ニュシ・モザンビーク大統領夫人を横浜の小学校にお連れしました。



ナミビアの「ナミビーフ」



ザンビアの「ザンビーフ」

5. 「アフリカに一番近い都市」横浜

冒頭、政令指定都市で初となる国際局創設について触れましたが、横浜市の国際化のあゆみは、1859年の横浜港開港にまでさかのぼります。開港以来の歴史や海外諸都市・機関等とのネットワーク、これまでの国際協力の成果などを活かしながら、「横浜市国際戦略」のもと、市民、企業や関係機関のみなさまとともに、「世界とともに成長する横浜」の実現に向けて国際事業に取り組んでいます。

また、横浜市は、TICADⅣ及び TICADⅤの開催地となったことを契機に、アフリカとの交流・協力を深めてきました。初のアフリカ開催となった TICADⅥを経て、TICADⅦが横浜で開催されます。この開催都市の縁をいかし、「アフリカに一番近い都市」横浜として、アフリカとの連携を一層促進していくこととしています。

横浜市がアフリカに力を入れているとはいえ、私は外務省に来るまではアフリカには全く縁がなく、知識もほとんどありませんでした。外務省で TICAD やアフリカ第二課の業務に携わらせていただき、アフリカについて深く知る機会を得ました。この縁を大切にしたいと思います。

6. おわりに

自治体からの出向者にとって外務省は未知の世界です。言葉遣い、決裁プロセス、スピード感、何もかも違い、最初は本当に戸惑いました。なんとかやっけてこられているのは、これまで業務に関わったみなさんの温かいサポートのおかげです。

外務省のみなさんと仕事をして感じていることは、個々の能力が高く、自分の仕事に強い責任感をもっているということです。「わかりません、できません」と逃げずに、「とりあえず、やってみよう。なんとかなるか。」という気持ちでいられるのは、みなさんの真摯に仕事に向き合う姿勢に影響を受けたからだと思います。

また、外務省に来て「伊勢志摩サミット」「TICADⅥ in ナイロビ」「TICAD 閣僚会合 in マプト」等の大型行事を通じて、省内・在外公館色々な部署のみなさんと関わることができ、ネットワークが広がった事が私の一番の財産となりました。アフリカ第二課の業務においても、このネットワークのおかげで助けられていることが多いです。

私は本省での勤務のあと、在外公館にて勤務する予定ですが、更なる未知の世界で、正直不安なものも反面、新たなネットワークが広がるかもしれないと思うと楽しみです。本省・在外での貴重な経験と出会いを、横浜市に戻ったあとの業務にいかしていきたいと思います。ありがとうございました。

